

日本留学フェア 2023 実施報告書

作成日：11月6日（月）
作成者：ムンフトヤ

標記の第14回「日本留学フェア2023」を以下のとおり実施しましたので、報告いたします。

記

1. 開催日時：
・10月06日（金）09：00～17：00 -現地教育機関訪問
・10月07日（土）11：00～17：30 -フェア1日目
・10月08日（日）11：30～17：30 -フェア2日目

2. 開催場所： モンゴル・日本人材開発センター
（多目的室、ロビー、2Fセミナールーム）

3. 実施体制：

1) 日本留学フェア実施体制

主催： モンゴル・日本人材開発センター

共催： モンゴル国立大学（NUM）

後援・協力：在モンゴル日本国大使館、国際協力機構（JICA）、日本学生支援機構（JASSO）
帰国留学生会「JUGAMO会」

2) センター内フェア実施体制

図書交流課を中心に実施。

JICA 専門家、総務課長がフォロー。

日本語課、ビジネス課、総務課は通訳をサポート。

また、図書交流課で留学フェア参加者の空港送迎や会場設営をサポート。

3) 参加大学・機関（五十音順）

（うち対面参加）

大阪大学、京都先端科学大学、国際医療福祉大学、国際大学、東京国際大学、
東洋大学、名古屋商科大学、兵庫県立大学、立命館アジア太平洋大学、
日本学生支援機構（JASSO）

（うち資料参加）

慶應義塾大学、東京大学（PEAK）、武蔵野大学、山形大学

合計：13校、1機関

4. 日本の大学からの参加者人数： 15名

5. 現地参加対象者と参加者数

➤ 参加対象者： 高校生、大学・大学院生、一般社会人、大学関係者など

➤ 参加者数： アンケート配布ベースで992名（内アンケート回答者数：831名）

（センター来館者数：（2日間の来場者延べ数）：1181名

アンケートベース 831名→07日：401名、08日：430名）

6. 全体プログラム

- ・ 10月06日（金）
現地での教育機関訪問対象 6 ヶ所→（新モンゴル小中高一環学校、新モンゴル高専、新モンゴル日馬富士、NOMT NARAN 学校、SANT 学校、モンゴル科学技術大学 /MUST/）担当者との面談、訪問先の視察など。
- ・ 10月07日（土）
「留学フェア」→国費留学生試験制度について（在モンゴル日本国大使館）、日本学生支援機構（JASSO）、各大学の紹介プレゼンテーション、鶴田 JF 日本語専門家による講演、大学紹介プレゼンテーション、各大学および在モンゴル日本国大使館、日本学生支援機構（JASSO）による個別相談
- ・ 10月08日（日）
「留学フェア」→国費留学生試験制度について（在モンゴル日本国大使館）、日本学生支援機構（JASSO）、各大学の紹介プレゼンテーション、各大学および在モンゴル日本国大使館、日本学生支援機構（JASSO）による個別相談、帰国留学生トークイベント（JUGAMO）、各大学の紹介プレゼンテーション、反省会、懇親会

7. 広報実績

- 8月11日より留学フェアに関する情報をセンターFB、HPで広報を開始した。
- 9月25日よりモンゴル国立大学・図書館の前にバナー（3.20m*5.20m）を掲示。
- 9月15日から08日までセンターFBを通じて有料BOOST POST サービスでフェア案内を発信した。
- 9月25日と10月6日にセンター各種ML（日本語コース受講生、PCコース受講生、無料相談窓口利用者、日本語教師会、モンゴル国立大学、新モンゴル、JUGAMO）などを2回10000名のメーリングリストにフェア情報を発信した。

8. アンケート集計

留学フェア10月07日（土）回答者数401名（回収率約68%）

留学フェア10月08日（日）回答者数430名（回収率約73%）

9. 現地での教育機関訪問の実施内容

1) 私立高校への訪問及び意見交換

訪問先の視察、学長、校長との面談、教師や高専学生との意見交換、協定校との連携や学生交換についての意見交換、現地での日本語学習者の現状について訪問先による説明。訪問先へモンゴル・日本人材開発センターJICA業務調整員、通訳としてMOJCスタッフが同行した。

2) 訪問先および参加大学は下表の通り。

| No | 訪問先 | 参加大学名 | 参加人数 | センター 同行者人数 |
|----|----------------------|--|------|---------------|
| 1 | 新モンゴル小中高一環学校 | 名古屋商科大学-1名 東洋大学-1名 | 2名 | 1名 |
| 2 | 新モンゴル高専 | 名古屋商科大学-1名 JASSO-1名 | 2名 | 1名 |
| 3 | 新モンゴル日馬富士学校 | JASSO-1名 京都先端科学大学-1名 兵庫県立大学-3名 東洋大学1名 | 6名 | 2名 |
| 4 | NOMT NARAN 学校 | 立命館アジア太平洋大学-1名 | 1名 | 1名 |
| 5 | SANT 学校 | 京都先端科学大学-1名 立命館アジア太平洋大学-1名 | 2名 | 1名 |
| 6 | モンゴル科学技術大学 /MUST/ | 大阪大学 -2名 | 2名 | 1名 |

10. 留学説明会・留学フェア実施

① 留学フェア全体に関して：

今回は、在モンゴル日本国大使館と JASSO による説明をセンター1階のロビーで行った。「日本留学フェア 2023」には日本留学の概要と JASSO の奨学金制度のほか、帰国留学体験談・帰国留学生トークイベントも含まれた。在モンゴル日本国大使館、JASSO や参加大学のブースを多目的室に設置した。開会式を 11 時 00 分から開始、そのあと 11 時 30 分から 17 時 30 分まで多目的室にて在モンゴル日本国大使館、JASSO や各大学による個別相談を行った。

② 各大学の紹介プレゼンテーションに関して：

フェア1日目と2日目に各1回のみ大学紹介プレゼンテーションを実施した。初日は午後 12 時 40 分から各大学のプレゼンテーションを開始した。最終日は 9 校のプレゼンテーションを 2 回に分け、プレゼンテーション順を初日と逆の順序とした。会場については、フェア 2 日もロビーとした。プレゼンテーションは大学担当者が POWERPOINT を用いて原則日本語、また英語で行い、逐次モンゴル語通訳を入れ、15 分～20 分間以内とした。

③ 各大学の個別ブースセッションに関して：

フェアは定刻 11 時 30 分から多目的室で開始された。全般的には、個別相談の内容は例年同様に奨学金制度とその資格要件、学費、取得可能な学位や資格、日本語別科の有無や大学院などについての質問が多かった。また英語のプログラムがあるか、英語での入学は可能かという質問が例年よりさらに増した。

11. 反省会

留学フェア2日目の終了直後、センター2階の204・205号室において参加大学をはじめ、在モンゴル日本国大使館の代表者の出席のもと、反省会を実施した。主催者側から滝口専門家、総務課長、留学フェア担当スタッフが参加した。最初に滝口専門家より挨拶を行い、参加各大学に対して、センター側から、フェアについての全体の評価、来年に向けてのフェア運営の改善点、各大学在学中のモンゴル人学生の人数について質問した。各大学の代表から留学フェアについてコメントをいただいた。

各大学在籍モンゴル人学生の人数について：

大阪大学-20名、京都先端科学大学-10名、国際医療福祉大学-30名、国際大学-15名、東京国際大学-40名、東洋大学-15名(2022年の5月時点)、名古屋商科大学-2名、兵庫県立大学-13名、立命館アジア太平洋大学-56名

➤ 参加大学から主なコメントについて：

・今回、主な質問として「日本留学に向けての奨学金事情を聴きたい」「日本留学試験の内容について知りたい」「日本留学試験過去問題集の入手方法を知りたい」「JASSOの事業内容について」「JASSOは学校か」「日本に留学してよい日本語学校を紹介してほしい」「日本でアニメーションの勉強をしたいが良い学校を紹介してくれないか」「EJU対策(3か月程度)のプログラムはあるか」「大学入学前にもらえる奨学金制度はあるか」「生活費を含めた奨学金はあるか」「大学院に入学したい。どんな学校があるか(栄養学などの特殊分野)」などの問い合わせを受けた。生活費を含めた奨学金と渡日前の奨学金制度を求めている方が大勢見られたほか、英語で大学のキャンパスライフ(授業や学内生活)を送ることを希望する来場者や、大学を中途退学して日本留学をしたい学生も多くみられた。

JLPT(日本語能力試験)の資格だけで大学に出願できるかと誤解されている方も多く見受けられたので、日本の高等教育機関への進学にあたっての共通テストであるEJU(日本留学試験)の認知度を高める必要性を感じた。

・工学、土木、特に建築学、及び情報科学(ソフトウェア、コンピューターサイエンス)ITに関心を持つ学生が多く、中には日本語・英語力ともに非常に高い学生もいた。

・生物学、化学、工学の分野で英語を使って日本で勉強したいという学生が多かった。また、日本語や中国語ができる学生も増えているようである。英語が堪能な学生が多かった。

・日本語より英語で留学したいという学生が多かった。またIT、エンジニアを選考したいという生徒が多かった。高校生は早くから情報収集することがわかった。今年の高校3年生が来年応募するであろう。

・昨年より、大学院進学(英語)を希望している人が増えた印象である。

・高校3年生だけでなく中学生などの年齢層からこのようなフェアに参加するなど、進路について早い段階から真剣に考えている学生が多い印象である。よく出た質問はやはり奨学金のことや卒業後の進路についてが多かった。

・フェアの準備から金曜日の学校訪問、実際のフェアまで非常に手厚く、今年も参加して良かったと感じている。学生の傾向としては、やはり理系、工学などの志望者は一定数いるが、まだ何を学びたいかわからないという学生もいて、APUの学部をアピールできたのが良かった。奨学金への関心は昨年同様に高かったが、一番はじめに聞く質問ではなく、まずはどんな大学なのか、何を学べるのかを質問してくる学生が多かったように感じた。交換留学に関心を寄せている学生も多くいた。また、モンゴルの学生は海外で学ぶ意欲がある学生が多いように感じた。

・運営についてなんですが、個人的にいろんな海外のフェアに参加しておりますが、今のところモンゴル日本センターがダントツで一番細やかなケアが行き届いているフェアです。しおり、アレンジメント、広報文化とかはすごく手厚くて本当にありがたいなと思っております。通訳に関しまして、同じような経験がある方についてもらいましたので安心してできたのでよかったですと思います。

・昨年からの違いというところは、我々もやはり英語学習者が増えているかなと、あと学士と

修士の比率で言うと、学士を希望している人が去年より多いかなという印象を受けています。

➤ **参加大学からの提案について：**

- ・運営上で複雑にしなければ、2日間ブースと並行して、予約制で「個別相談（1人15～20分程度）」の時間も設けられたらピンポイントで相談に来たい学生にとっては良いかもしれない。（予めフェアのポータルサイトでどんな大学・コースが参加するなど下調べをされていて具体的な質問があるような学生に限る）
- ・大学ごとの説明会を別室で長時間（45分～1時間）実施してほしい。
- ・プレゼンテーションの順番について一日目、二日目と公平性のために逆順にしていると思うが、順番が最初&最後になるとイベント始めと最後の時間帯はどうしても学生が少なくなってしまう＝真ん中の学校が一番動員としては理想的では？と感じた。
- ・1日以上学校を訪問することは可能でしょうか？（学校訪問の回数を増やしたい）
- ・フェアのタイミングをもっと近づけたり、ウランバートル・インターナショナルスクールフェアを含めたりすることは可能でしょうか？
- ・学士課程と大学院課程の別々の（開催）時期があってほしい。
- ・モンゴル国立医科大学など、もっと多くの大学の学生や大学関係者が参加することを願っている。また、日本の大学院に学生を送り出したいと考えている教授を留学フェアに招待できればと思う。

12. 懇親会

今年は例年通りフェア2日目終了後に懇親会をセンターの多目的室にて実施した。日本の大学参加者は現地の教育機関関係者や教師と意見交換を行った。今回はモンゴル国立大学の学生育成対策局長、日本語教師会長/モンゴル国立大学/および新モンゴル小中高一貫学校、新モンゴル高専、新モンゴル日馬富士学校、Sant学校、British School of Ulaanbaatarの担当者が懇親会に来てくださった。

13. 全体として

良かった点：

- 例年同様に JICA モンゴル事務所を通して、参加大学からの案内資料等を通関トラブルなしに無事に受領できた。
- 鶴田 JF 日本語専門家による講演が非常に人気であり、好評だった。今回の講演は日本留学や日本語に興味があるが、どのように勉強をし始めたら良いかをまだ分からない来場者にとって日本語の勉強方法や便利なツール等を知る有意義な情報提供場になった。
- 通訳の方々非常に優秀で積極的にサポートしてくれた。
- 人が多い傾向があり、サポートが必要な大学に相談のうで通訳者を配置した。通訳者がいたことで大変助かったという声が多かった。
- 対面でご参加された各大学の情報を英語版で FB ページで掲載したことで、日本語が話せなくても英語で日本へ留学したい人々へ宣伝できた。
- 大学の配布資料の不足した時の対策のため、2日目から各大学の QR コードを各テーブルに配置した。
- 2日目に「JUGAMO 会」と連携し、ゲストとして帰国留学生を招きトークイベントを実施した。また、今回は特別に帰国留学生用にブース（約2時間）を設けた。そのため、来場者は具体的な情報を直接聞くことができ、非常に好評だった。
- 去年、プレゼンテーションの時間が短いという声が多かったため、今回は時間を 15～20分に調整し、問題を解消した。
- 毎年の参加料送金に関するドルが不足しているトラブルについて、事前に注意点や説明を行い、対策を取ったため、今回はこのような問題が無かった。
- 去年の反省点として今回の学校訪問の詳細スケジュールと注意点を各大学ごとに作成し、事前にお知らせした。

2) 今後の課題

- 広報に関して、当センターの留学フェアをもっと知ってもらうためにより力を入れること。また、さらに人を集めるよう広報活動を工夫する。
- JASSO について当センターの FB ページなどで説明し、宣伝すること。
- 各大学ごとにプレゼンテーションと Q&A の時間ができるよう個別相談室を設けることを検討する。
- プレゼンテーションの順番についてより公平になるよう工夫する。例えば、2 日ともくじ引きで順番を決めることを検討する。
- 終了後の大学からのアンケートや来場者アンケートの意見を次回フェアに可能な範囲で活かしていきたい。

以上